

高槻子ども未来館について

高槻市には、府内産材を活用した木造施設として高槻子ども未来館がある。本施設における木材利用について高槻市都市創造部建築課に対しヒアリングを行い、併せて現地見学を行った。

1 施設概要

(1) 概要

新たな就学前児童の拠点として、1階に高槻認定こども園、2階に子ども保健センター、3階に子育て支援人材育成施設で構成される施設。

(2) 設立時期

平成31年4月 オープン

(3) 設計・施工

設計：大建設計

施工：大鉄広成小阪JV

(4) 構造

鉄骨造（3階建て部分）＋木造（平屋建て部分）

※基本設計の業務の中で、コストも含めた構造比較検討を行い、本構造に決定した。

(5) 写真

外観	 The image shows two photographs. The left one is an exterior view of a modern building with a mix of brick and wood paneling. The right one shows the entrance with large glass doors and a sign above that reads '高槻市立 高槻認定こども園' (Takatsuki City Takatsuki Certified Kindergarten).
廊下	 The image shows a long, bright hallway with light-colored wood flooring and walls. Large windows on the right side provide natural light. A small table with items on it is visible in the foreground. <p>※左写真：右側の柱に府内産材を使用している</p>

<p>ホール</p>	 <p>※柱、梁に府内産材を使用している</p>
<p>2F 機械室</p>	
<p>園室</p>	
<p>園庭</p>	

(6) 府内産材の利用

高槻市木材利用基本方針に基づく行政側からの提案により、構造部材（柱、梁、土台、一部床材）に府内産材を利用している。産地別割合及び利用量については以下の通り。

高槻市産材	約 90%
府内産材（高槻市以外）	約 10%
使用量（建設現場使用量）	約 160 m ³

※本施設は、3階建ての部分と平屋建て部分に分かれているが、府内産材を利用しているのは平屋建て部分になる。

2 府内産材利用に対する庁内の反応

「子ども未来館」は小さな子どもが毎日過ごす施設であるため、木造化に対する原課の理解も得られやすかった。初めてすることに特有の抵抗感があったが、事例の積み上げにより、解消できるかもしれないとのことであった。

3 府内産材調達について

(1) 森林組合との調整

高槻産材を含むことから、事前に大阪府森林組合三島支店とボリュームや納期などを市のほうが窓口となってヒアリングを行い、詳細については設計会社と森林組合との間で打ち合わせを行った。

(2) 調達期間について

H28.9 頃（実施設計中）に伐採を開始し1次加工を行った後、H29.10 頃から順次木材加工工場へ納品。木材加工工場で各部材に加工した後、H30.4 に現場納品し建て方を実施。

(3) コストについて

コスト比較を行ったところ、他の国産材に比べ1割程度高額であった。

(4) 木材加工について

CLTは岡山で加工したものを使用している。高槻市内で集成材等に加工できる業者がないので、全てを市内で完結させるのは難しいため、市外での加工が必要になるのは仕方ないものにとらえている。

4 法令上の制限への対応

木造による法令上の制限への対応については、不燃処理ではなく、燃えしろ設計で対応している。具体的には、構造材を本来より太めにする（例：10 cm角⇒12 cm角）といった対応をとっている。